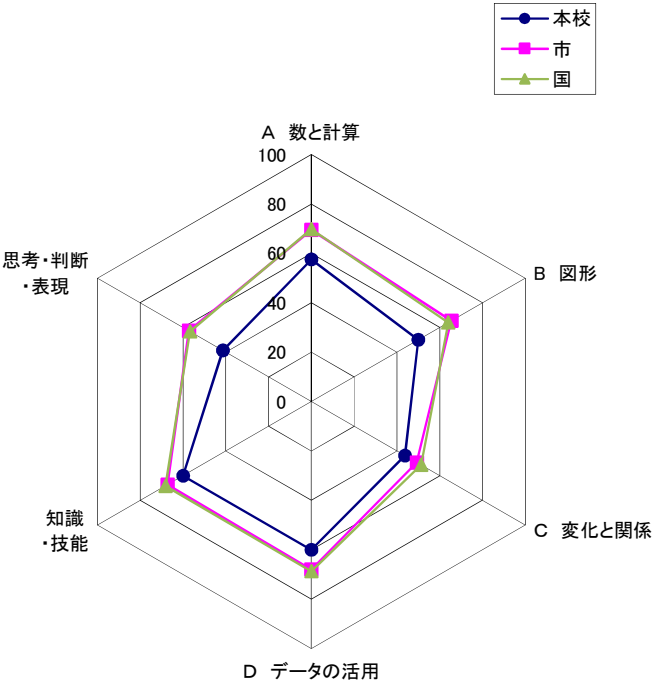


宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.5	69.5	69.8
	B 図形	50.0	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	43.8	49.3	51.3
	D データの活用	60.0	68.0	68.7
観点	知識・技能	60.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	41.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市より12.0ポイント、国より12.3ポイント低い。 ○整数の乗法の計算を行う問題の正答率は、国より2.6ポイント高い。 ●2つの数の最小公倍数を求める問題では、正答率が国より22.2ポイント低い。 ●加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述する問題では、国より32.7ポイント低い。	・除法の場面では、被除数と除数を正しく捉えて立式できるように指導していく。図で問題場面を表すなど具体的な方法を示すなど、立式につなげられるように指導を工夫する。 ・計算のきまりについて再度確認し、きまりを使って正しく計算できるようにするだけでなく、言葉で説明することができるようにする。 ・問題文を読んで、何を求めればよいかをつかませ、示された条件を図の中に書き込ませるなど工夫して問題に取り組むようにする。
B 図形	平均正答率は、市より15.4ポイント・国より14.0ポイント低い。 ●図形を構成する要素に着目して、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ問題では、正答率が国より11.5ポイント低い。 ●示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題では、正答率は国より27.6ポイント低い。	・実際に図形を描いたり、プログラミングを行って図形を描いたりするなどの体験的な学習活動や操作的な学習活動を取り入れ、図形の性質や構成要素に着目させて、図形についての理解を深めるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、市より5.5ポイント、国より7.5ポイント低い。 ●百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題では、正答率が国に比べて9.6ポイント低い。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題では、国の正答率より13.0ポイント低い。	・割合に関する基本事項を確認し、プリントやAIDリルを使って繰り返し問題を解くようにする。その際、具体的な生活の中における使用場面を設定し、意欲的に課題解決に取り組めるようにしていく。
D データの活用	平均正答率は、市より8.0ポイント、国より8.7ポイント低い。 ●分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題では、正答率が国に比べて8.9ポイント低い。 ●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題では、国の正答率より11.8ポイント低い。	・複数のデータを分析する場合には、それぞれのグラフのどの部分に着目したのか説明する活動を設定するなど、工夫して指導を行っていく。また、日頃から様々な教科でグラフや表などの資料から情報を読み取る活動を効果的に取り入れ、グラフや表を活用する力を身に付けさせる。 ・円グラフや帯グラフを適切に読み取り判断することができるように、生活の中における使用場面を具体的に設定するなどし、意欲的に課題解決に取り組めるように工夫する。